

コンクリートブロック塀等の点検表

1. 施設名 ()
2. ブロック塀の有無 (ある なし) ※なしの場合は終了です。
3. ブロック塀の点検 ⇒ブロック塀の高さ(1. 2mを超えるか否か)で点検表が異なります。

○高さ1. 2mを超える塀の点検表(コンクリートブロック塀)

点検項目		点検内容	点検結果	
			適合	不適合
1	高さ	2.2m以下	はい	いいえ
2	塀の厚さ	高さ2mを超える塀で15cm以上	はい	いいえ
		高さ2m以下での塀で10cm以上	はい	いいえ
3	鉄筋	塀内に鉄筋が入っている。	はい	いいえ (確認不能を含む)
4	控壁	3.4m以内ごとに、鉄筋が入った控壁が塀の高さの1/5以上突出している	はい	いいえ
5	傾き ひび割れ	全体的に傾いていない、 又は1mm以上のひび割れがない	はい	いいえ
6	ぐらつき	人の力で簡単にぐらつかない	はい	いいえ
7	その他	塀が土留め壁を兼ねていない 又は玉石積み擁壁等の上でない	はい	いいえ

○高さ1. 2m以下の塀の点検表(組積造)

点検項目		点検内容	点検結果	
			適合	不適合
1	塀の厚さ	各部分の厚さがその部分から壁頂までの垂直距離の1/10以上ある	はい	いいえ
2	控壁	4m以内ごとに壁面からその部分における壁の厚さの1.5倍以上突出している 又は壁の厚さが必要寸法の1.5倍以上ある	はい	いいえ
3	傾き ひび割れ	全体的に傾いていない 又は1mm以上のひび割れがない	はい	いいえ
4	ぐらつき	人の力で簡単にぐらつかない	はい	いいえ
5	その他	塀が土留め壁を兼ねていない 又は玉石積み擁壁等の上でない	はい	いいえ

評価
1つでも不適合があれば、コンクリートブロック塀等の安全対策が必要となりますので、詳細調査をお願いします。塀の位置が通学路又は緊急輸送道路・避難路に面している場合は、特に必要です。

※上記項目のほか、十分な根入れ深さを有する鉄筋コンクリート造の基礎が必要です。(詳細は裏面ブロック塀の仕組み参照)

目視で基礎が確認できる場合はチェックしてください。基礎の確認が (できる できない)

<この調査は目視等により最低限の安全性を確認する簡易的な調査です。安全性の確認には鉄筋の配筋状況や基礎の状況など、詳細な調査が必要です。>

◆ブロック塀の仕組み

① 地盤

地盤は、塀全体を支え、基礎から一体となった塀の転倒に抵抗する役割を果たします。したがって、大きな力（地耐力）が要求されます。

② 基礎

基礎は、鉄筋コンクリートで堅固に造り、塀本体と一体とし、最低でも30cm以上地中に根入れして転倒しないようにします。基礎の形式はI型のほか、抵抗力の大きなL形、T形及び鋼管杭打ち基礎などがあります。

③ たて筋

たて筋は、壁に作用する横力に抵抗する重要なものです。基礎への緊結がポイントです。

④ よこ筋

よこ筋は、壁体の長さ方向を強固に一体化するもので、控壁がある場合は、特に重要な役割を果たします。

⑤ かさ木

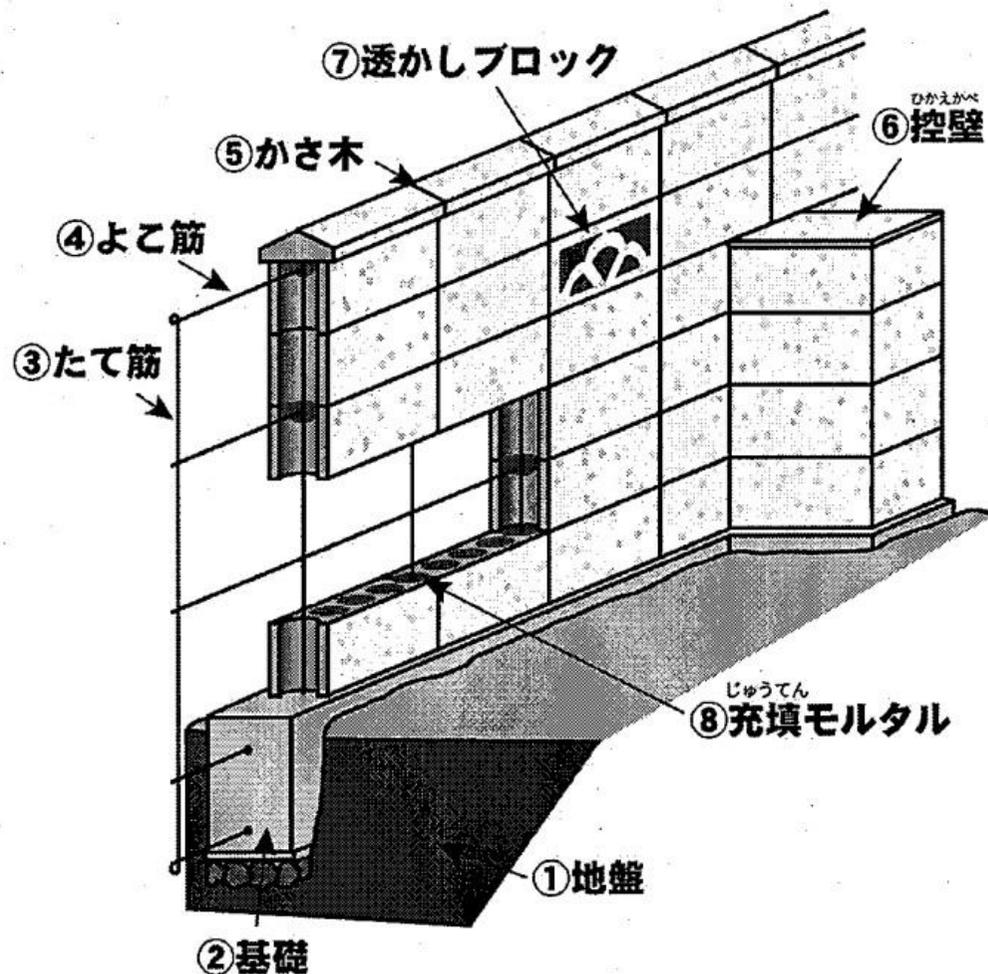
かさ木は、塀本体へ雨水等が侵入するのを防ぎ、ブロック及び鉄筋を保護します。

⑥ 控壁 (控柱)

控壁は、塀の転倒に対する抵抗力を増すために、長さ3.4m以内毎に設けます。

⑦ 透かしブロック

透かしブロックは、塀に表情を与えますが、透かしブロックを多用すると、壁体の強度を低下させます。



⑧ 充填モルタル

充填モルタルは、鉄筋とブロックを一体化させるもので、強固な壁体を作るとともに、鉄筋を保護する役目を果たします。鉄筋の周辺部にモルタルが密実に充填されないと、塀の強度低下や劣化を早めることとなります。